

あいち自動車産業イノベーションプラン（仮称）の概要（自動車産業の現状と将来予測）

自動車産業の現状

愛知県において自動車産業は製造業全体に対し、出荷額で46%、従業員数で32%（2009年度）を占め、県内の産業・雇用の重要な柱であり、自動車産業の浮沈が愛知県内の経済全体に与える影響は極めて大きい。

長期化・深刻化する円高に対し、企業の海外生産の拡大や海外移転が進んでおり、経済産業省の調査では、現水準の円高が継続した場合、46%の企業が海外移転を検討するとされている。

自動車の電動化により、従来のガソリンエンジン車の部品約3万点のうち、エンジン、トランスミッション、エンジン制御装置等約1万点が不要または減少し、モーター、バッテリーなど約2千点が増加するとされている。

自動車産業の将来予測

世界的には自動車の生産・販売は伸びる予定であり、自動車保有台数は2030年には現在の約2倍の規模となり（9億台→16億台）、また、その主流は、新興国市場であり、ガソリンエンジン車であるとされている。

日本国内の生産・販売は、国内市場の縮小や海外生産の拡大により減少するとともに、その主流は、次世代自動車（HV、PHV、EV、FCV等）と高機能エンジン車（超低燃費ガソリンエンジン車、代替燃料エンジン車等）になっていくとされている。

少子高齢社会における自動車に対する意識の変化（所有から使用へ、ファミリーカーからパーソナルモビリティへ）やエネルギーへの関心の高まりにより、自動車に求める役割が大きく変わってきている。

市場のセグメント化が進行 → 「国内で売れる車」と「世界で売れる車」が分化し、市場が多様化する

国内市場の動向

少子高齢社会の進行により、国内市場全体の規模は徐々に縮小すると予測されている。環境重視、エネルギー制約への対応のため、次世代自動車への移行が加速していく。その主流は、HV及びPHVであり、EV・FCVも充電インフラ等の充実にあわせ、シェアを伸ばしていく。また、ガソリンエンジン車では、超低燃費や代替燃料が主流になり、通常のガソリンエンジン車では、輸入車の割合が増加すると予想されている。

次世代自動車（特にPHV・EV）の普及に伴い、動力の電動化に合わせたエネルギー端末・情報端末等としての役割が高まり、その機能を活かした周辺産業が拡大する。高齢者や女性が好む超小型自動車やパーソナルモビリティ、事故回避機能付きの自動車などの新たな市場が創出される。

海外市場の動向

○先進国市場（欧米等）
市場規模は横ばいか徐々に減少すると予測されている。
日本と同様に、次世代自動車への移行が進展するが、通常のガソリン車も高度化・ブランド化して存続する。

○新興国市場（東アジア、中近東等）
市場規模は大きく拡大する。
次世代自動車の導入も進むが、主流は従来のガソリンエンジン車であるとみられている。

ボリュームゾーン

どの市場を狙うかという企業戦略が必要（高付加価値化を目指すか、ボリュームゾーンで稼ぐか）

自動車生産の動向

○国内生産の動向

国内生産は、輸出用車両の生産が海外現地生産に移行していくため、徐々に減少すると予測される。（円高がさらに海外移転を加速させていると見られる。）
次世代自動車等の生産は拡大するが、HVなどのガソリンエンジン併用型が主流のため、従来の技術の延長で部品生産は可能であるが、価格競争は激化し、品質に対する要求も高度化していくことが予想される。

○海外生産の動向

海外生産は、ボリュームゾーンである新興国向けのガソリンエンジン車を中心に大きく拡大するが、世界レベルで価格競争が激化するため、将来展望は不透明であると見られる。
大企業であるグローバルメーカーや一次下請けの中堅企業は対応可能であるが、中小企業には負担が大きくリスクが高いため、中長期的には追従が困難なケースもあると見られる。